



**arclev**  
academic consulting firm



## アークレブは国際的な 最先端有望研究者ネットワークです

アークレブはアカデミアのインサイダーとして、世界をリードする第一級の研究者から、未だ野に埋もれている将来有望な若手研究者までを含む有機的な研究者ネットワークを有しています。

弊社はクライアント様の事業領域に強い関心と意欲を持つ研究者を見出し、クライアント様との間に様々な協力関係を構築することで、貴社の研究開発や新規事業創出を支援いたします。  
貴社社員の人材育成としても有効なソリューションです。

## *Vision*

### 研究開発で世界をリードする新しい日本

グローバルな開発競争をリードする強いR&D。

スター研究者を次々と輩出し、世界の研究をリードするアカデミア。

それがアークレブの目指す日本の未来です。

## *Mission*

### 日本のアカデミアに世界最高水準の研究費を集める

私たちは“研究者と起業家が融合した全く新しいチーム”です。

私たちは、産業界への貢献に高い志を持つ国内有数の研究者ネットワークとして、

研究者と企業の最良のリエゾンなります。

## *Value*

### 研究者の成功が、社会の成功を導く

私たちはそう信じています。

私たちは、世界を驚かす新技術と

スター研究者を生み出す“海”でありたいと考えています。

# 代表メッセージ

アークレブはアカデミアのインサイダーであり、  
研究者と企業の最良のリエゾンになります

株式会社アークレブ 代表取締役社長  
慶應義塾大学特任教授  
**浅井 誠 博士（工学）**

日本の元気は企業の底力に支えられています。

しかし、現代科学技術の進展は加速度的、且つ、異分野融合トレンドにあり、

企業のR&Dがそれに機敏に対応することは至難の技です。

シリコンバレーのように大学との連携を密にし、研究大学と企業との間に  
有機的で好循環な研究開発サイクルを回すことは極めて重要です。

一方、多くのノーベル賞受賞者を輩出し、世界を牽引してきた日本の大学は、  
近年の継続的な交付金削減政策が、将来的な財政不安を招いており、  
世界における研究競争力の低下が懸念されています。

そのため、民間からの研究費獲得は大学にとって喫緊の課題です。

しかし、大学は企业文化との親和性が決して高くなく、  
日本の产学連携は未成熟のままです。

私たちアークレブは、“研究者と起業家が融合した全く新しいチーム”です。  
アークレブは、研究者と企業の最良の理解者であり、最良の繋ぎ手になります。

私たちは世界を驚かす新技術とスター研究者を生み出す“海”でありたい——  
それが私たちアークレブの想いです。



【経歴】2009年慶應義塾大学大学院後期博士課程修了。博士（工学）。その後、コロンビア大学研究員としてニューヨークで研究生活を送る。2021年から30代の慶應義塾大学特任教授に就任。専門はソフトマターの自己組織化現象。コロンビア大学時代に若手研究者の会を運営し、のべ4000人以上の参加者を集め、世界中に広がる学際的な研究者ネットワークを作る。世界最高峰の大学のダイナミズムを肌で感じるうちに、日本のアカデミアに強い危機感を持つようになる。100年先を見据えたテクノロジーを日本から発信するべく、新しい产学連携の仕組みづくりを目指して、アークレブ創業に至る。

## 【受賞歴】

- ・マリー・キュリー・フェローシップ優秀提案賞（2017 & 2018）
- ・国際若手研究者フェローシップ（2018）
- ・文部科学省卓越研究員選出（2018）
- ・プレジデンシャル国際フェローシップイニシアチブ（2019）

# アークレブのソリューション



## ハイコミットメント型の研究者ネットワーク



## 研究者アサインメント

(ニーズ一例)

貴社内に専門知識を持つ人材が不足。  
即戦力で優秀なメンバーが欲しい。

貴社の研究開発のために、  
プロジェクトチームを大学に組成し、  
世界で活躍する一流の研究者を  
強力な即戦力として  
ご活用いただけます。

# 世界トップクラスの現役若手研究者が 副業で貴社のR&Dチームにコミットします



### 技術・研究トレンド調査

(ニーズ一例)

自社の研究開発の方向性が、  
最近の研究・技術トレンドに  
マッチしているか知りたい。

業界トレンドを熟知した  
研究者によるコメントや  
分析レポートが得られます。



### ワークショップ

(ニーズ一例)

研究開発や新規事業の議論に対し、  
専門知見からアドバイスして欲しい。

貴社内のブレインストーミングや  
ワークショップに研究者が参加し、  
新しいアイデアの種や実現可能性を  
一緒に模索します。



### プロトタイプ提案

(ニーズ一例)

自社のシーズや資産を使った新たな  
事業や課題解決のアイデアが欲しい。

貴社の課題に対し、研究者がアイデア  
とプロトタイプを練り、提案します。



### 出張授業

(ニーズ一例)

定期的に関連分野の動向や  
新技術・情報をインプットしたい。

貴社事業の関連領域について  
最先端の知見を持つ研究者が、  
講義や講演に赴きます。

# ①技術・研究トレンド調査

現代科学技術の進展は、  
加速度的&異分野融合トレンドにあり、  
既存事業の開発競争力を維持しながら、  
技術トレンドに機敏に対応することは至難の技です。  
学会などに参加し、研究者らと接触することで  
情報収集をするのが一般的ですが、  
貴社にとって重要な技術情報を有する  
研究者を探すのは非効率である上に、  
研究者との信頼関係を築くのも容易ではありません。

アークレブは、貴社にとって最適な情報を有する  
最先端研究者をご紹介し、研究動向分析レポートや  
将来展望ヒアリングする機会をご提供します。  
これによって、貴社の事業計画に  
科学的エビデンスとスピードをもたらします。



## ②出張授業 / ③ワークショップ

企業の研究所は製品開発の根幹を担うだけではなく、最近では、新規事業創出につながる技術シーズを生み出すことが求められる傾向にあります。オープンイノベーションは有効なスキームですが、広範囲な研究分野にアンテナを張る必要があり、社内外の人材・技術情報を整理した上で、社内にコラボレーションの場を構築することは容易ではありません。また、新規事業創出のための社員様のマインド醸成も、大きな課題とされています。

アークレブは、貴社の事業領域にシナジーがある最先端研究者を定期的にご紹介し、最先端研究情報インプットセミナーをご提供します。また、研究者が新規事業を創出するマインドとノウハウに関するワークショップを開催することも可能です。これによって、技術シーズに基づいた新規事業創出の流れを支援します。



## ④プロトタイプ提案

コストとリスクを伴う新商品開発。  
そのプロトタイプ製作を  
社外の研究者チームに任せてみませんか？

例えば、近年爆発的に増えているAIサービス。  
AIテクノロジーを導入した新製品開発は  
製品に競争優位性をもたらすことが多いため、  
企業様にとってAI人材の獲得は喫緊の課題です。  
しかし、それは容易ではありません。

アークレブは、当該分野の研究者のチームを  
社外にプロジェクト型で組織し、  
プロトタイプを提案させていただきます。  
研究者の副業など活用することで、  
雇用のリスクを伴わない、  
新しい研究開発のスキームです。



## ⑤研究者アサインメント

従来の大学との共同研究に満足していますか？

アークレブはアカデミアのインサイダーです。  
だからこそ、貴社の事業領域に高い関心を持つ  
優秀な研究者をご紹介し、  
より実効的な共同研究体制を構築できます。

また、研究者の副業などを活用することで、  
社外に研究者チームを組織し、  
雇用のリスクを伴わない、  
新しい研究開発のスキームをご提供します。



# 研究者の副業 × 基礎研究支援

日本たばこ産業株式会社 様



渡邊宙志 博士（理学）

慶應義塾大学  
量子コンピューティングセンター  
特任講師（さきがけ研究員）  
AASNメンバー



早川大智 修士（工学）

米国Brandeis University  
物理学科博士2年  
孫正義育英財団フェロー  
AASNメンバー

物性シミュレーションのスペシャリストである渡邊氏とナノ物性工学を専門とする早川氏が、たばこ中央研究所の加熱式たばこの研究開発に参画し、基礎研究を共同で進めています。

プロジェクトはフルリモートで実施されており、

アークレブはJT様と一緒に

新しい時代の基礎研究体制作りに挑戦しています。

## 研究者の副業 × AI新規事業支援PJ 再生エネルギー系ベンチャー様

### ＜クライアント様の状況＞

#### ＜背景＞

- ・ 新規事業立ち上げに必要なスキルセットを有するデータサイエンティスト不足
- ・ 高度人材の雇用リスクを取れない+そもそも雇用チャンスがない
- ・ 最先端研究にさけるリソース不足

#### ＜リクエスト＞

最先端スキルセットを持つ  
人材活用

最先端研究の投資先  
(大学など) の斡旋

#### ＜アークレブのソリューション＞



#### 研究者アサインメント①

弊社有望研究者ネットワーク  
から副業人材をアサイン  
+  
弊社コンサルタントによる  
研究コンサル&伴走支援

||

超高度スキルセットを有する副業  
人材をプロジェクト型で社内活用  
(雇用リスクを回避)

#### 研究者アサインメント②

弊社有望研究者ネットワーク  
から最適研究者をアサイン  
+  
弊社コンサルタントによる  
研究コンサル&伴走支援

||

弊社介在によるストレスフリーな  
有望大学研究者との研究開発  
(雇用リスクを回避)

## 研究者 × 新商品開発&amp;新規事業創出

業界最大手メーカー研究開発本部様

## &lt;クライアント様の状況&gt;

## &lt;背景&gt;

- ・ 研究所には技術ベースでの付加価値創出が求められている
- ・ 研究分野は多岐にわたるが、イノベーティブな活用（新規事業創出など）が不十分
- ・ 最先端研究にさけるリソース不足

## &lt;リクエスト&gt;

新規事業創出のための  
研究員の活用方法が欲しい研究員への先端研究の  
情報インプット +  
マインドセットの構築最先端研究の投資先  
(大学など) の斡旋新商品開発の  
ハンズオン支援

## &lt;アークレブのソリューション&gt;



## プロトタイプ提案

社内にオープンイノベーション  
のプラットフォームを構築  
+  
関連分野の研究者を  
アドバイザリーとしてアサイン

||  
技術ベースの新規事業創出を  
研究者がハンズオン支援



## ワークショップ

最先端研究者によるセミナー  
+  
起業家によるワークショップ

||  
起業家マインドを持った  
研究者/社員の育成



## 研究者アサインメント

弊社有望研究者ネットワーク  
から最適研究者をアサイン  
+  
弊社コンサルタントによる  
研究開発コンサル&伴走支援  
||  
弊社介在によるストレスフリーな  
有望大学研究者との研究開発  
(雇用リスクを回避)

# 研究者 × 海外市場開拓～新製品開発PJ

## 部材メーカー様

### ＜クライアント様の状況＞

#### ＜背景＞

- ・ 国内トップシェアを誇るが、海外規格に適合しておらず海外市場で勝てない
- ・ 国内規格も海外規格と統一される可能性があり、海外規格適合製品開発が急務
- ・ 規格適合には素材開発が必要だが、板金加工メーカーなので自社開発が不可能

#### ＜リクエスト＞

開発すべき素材が欲しい

補助金で開発予算を貰いたい

素材を仕入れる商流が欲しい

### ＜アークレブのソリューション＞



#### 技術・研究トレンド調査 & 研究者アサインメント

関連分野の研究者が最先端の  
知見をもとに開発方針を提案

+

研究開発を実施できる  
研究者をアサイン

||

完全に外部リソースのみで  
新製品開発が可能

#### 研究者アサインメント

補助金（サポイン事業など）を  
獲得するための申請書作成支援

+

パートナー研究者の斡旋

||

研究者の協力のもと、実行性の  
高い申請書作成が可能

#### プロトタイプ提案

新素材を製造可能な  
協力企業の斡旋

+

新製品のための商流構築支援

||

新製品開発および  
仕入れルートの確保が可能

# アークレブは超有望研究者ネットワーク AASNを設立し、支援しています



A A S N  
arclev academia strategists network

多彩な才能はぶつかり合い  
社会を変革する新たなエネルギーを生み出す

# 文部科学大臣表彰受賞者

# 数学オリンピック金メダリスト

# 世界的研究大学/研究機関在籍者

# Highly Cited Researchers

# 女性研究者比率38%

# IVYリーグテニュア研究者



# アドバイザリーボード

豊富な産官学連携のご経験を有し、各分野で世界的リーダーとして業界を牽引している城戸教授・鄭教授をアドバイザリーボードにお迎えし、これからの産官学連携のあるべき姿を議論しています

城戸 淳二 (Junji Kido)

山形大学大学院理工学研究科  
卓越研究教授

【ご経歴】

1959年大阪府東大阪市生まれ。1984年早稲田大学理工学部応用化学科卒業後、1989年ニューヨークポリテクニック大学大学院にてPh.D.修了し、1989年より山形大学に着任。現在に至る。この間、有機ELの材料、デバイスの開発に従事、93年には世界初の白色発光素子の開発に成功。経済産業省・NEDOの有機ELプロジェクトの総括責任者、2003年より7年間、山形県産業技術推進機構有機エレクトロニクス研究所長も務めた。2013年紫綬褒章受章。2014年よりトムソン・ロイターHighly Cited Researcherに5回連続で選出。



鄭 雄一 (Chung Ung-il)

東京大学大学院工学系研究科・医学系研究科 教授  
JSTセンター・オブ・イノベーション 副機構長  
神奈川県立保健福祉大学大学院  
ヘルスイノベーション研究科研究科長・副学長

【ご経歴】

1964年東京都新宿区戸山生まれ。平成元年に東京大学医学部医学科を卒業、内科研修医および医員として勤めた後に、東京大学大学院医学系研究科に入学。在学中の平成7年に米国マサチューセッツ総合病院に留学し、ハーバード大学医学部講師、助教授を勤めた後、平成13年に東京大学に戻り、平成19年より東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻教授。平成25年よりJSTセンター・オブ・イノベーション「自分で守る健康社会」拠点副機構長・研究リーダー。平成28年より東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター教授を兼務。平成31年4月より神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科長を兼任（クロスマポイントメント）。専門は、骨・軟骨の生物学、再生医学、バイオマテリアル工学。センター・オブ・イノベーションでは、健康状態を可視化し行動変容を促す産学協創プロジェクトを推進している。神奈川県立保健福祉大学では、未病コンセプトの社会実装のための体系化と学問化に取り組んでいる。また、イノベーションマネジメントにおける道徳の役割についても研究している。



# 役員のご紹介

アークレブは、“研究者と起業家が融合した全く新しいチーム”です

## 平田 麻莉 (Mari Hirata)

取締役 / 共同創業者  
一般社団法人プロフェッショナル&  
パラレルキャリア・  
フリーランス協会 代表理事

### 【経歴】

慶應義塾大学総合政策学部在学中にPR会社ビルコムの創業期に参画。Fortune 500企業からベンチャーまで、国内外50社以上において広報の戦略・企画・実働を担い、戦略的PR手法の体系化に尽力。ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院への交換留学を経て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了。同大学ビジネス・スクール委員長室で広報・国際連携・涉外業務を担いつつ、同大学大学院政策・メディア研究科博士課程で学生と職員の二足の草鞋を履く（出産を機に退学）。現在はフリーランスで広報や出版、ケースメソッド教材制作を行う傍ら、2017年1月にプロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会設立。新しい働き方のムーブメントづくりと環境整備に情熱を注ぐ。大学での勤務・研究経験と、企業における外部プロフェッショナル人材活用の啓発・推進をする立場から、国内の研究者と企業の縁結びに意義を感じ、アークレブの設立に参画。外部プロフェッショナル人材活用に関する講演および政府有識者の実績多数。

日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2020」受賞。



## 三好 浩和 (Hirokazu Miyoshi)

取締役 / 共同創業者  
株式会社 フォリウム 代表取締役CEO

### 【経歴】

慶應義塾大学在学中に、企業の中国進出を知財の側面から支援することを期して渡中。2005年に設立し代表を務めたオフィショアビジネスプロセスアウトソーシング（BPO）企業のフォジンジャパン株式会社並びに大連活今信息科技有限公司の事業運営を通じて、数々の日本企業の中国拠点の設立や中国での業務運営体制の構築をハンズオンで支援（同社を2014年に譲渡）。2010年には地方創生をミッションとした国内BPO企業のトゥルージオを設立。その後、並行して経営コンサルティング企業のゾールド株式会社を設立し、大手ビッグデータ解析企業との合弁事業、新興モバイルネットリサーチ事業の立ち上げ、プラスチックリサイクル技術企業の再生、大規模太陽光発電所に特化した開発・建設事業の立ち上げ、ゴルフ場予約システム企業やフィットネス業界向けのサブスクリプションサービス企業への経営支援など事業創出分野での実績多数。アークレブには自身の初心である日本の技術立国への想いから代表浅井の理念に共感し、創業メンバーとして参画。



# 会社概要

名称	株式会社アークレブ (Arclev, Inc.)
所在地	〒105-6415 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門ヒルズビジネスパーク15階 CIC Tokyo内 
創業	2019年
代表者	代表取締役社長/共同創業者 浅井 誠 Ph.D (兼任 慶應義塾大学特任教授)
役員	取締役 平田 麻莉 (兼任 一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会代表理事)  取締役 三好 浩和 (兼任 株式会社フォリウム代表取締役CEO)
事業内容	研究開発支援コンサルティング 研究開発人材マッチング
関連団体	AASN (アークレブ・アカデミア・ストラテジスト・ネットワーク)
お問い合わせ先	<u><a href="#">お問い合わせフォーム</a></u> をご利用ください

弊社研究者イベント情報など随時発信しています

 <https://www.facebook.com/aasnjapan>

 <https://twitter.com/AASNjp>

 <https://www.youtube.com/channel/UC1nENutcvKLgtfQVdggZ88w>

社名“アークレブ”に込められた想い

*GIVE ME A PLACE TO STAND AND  
I WILL MOVE THE EARTH*

(我に足場を与えよ。されば地球をも動かさん)

これは科学の巨人・アルキメデスの著名な言葉の一つであり、いわゆるテコの原理（アルキメデスの原理）を表しています。

知性に基づいた想像力が天地をも動かす力になりうるのだ、という人類の可能性を謳っているようにも思えます。

研究者と企業との問題は、科学の発展という  
人類の原点を脅かす大きな問題です。  
私たちは両者をつなぎ、最良の支点になりたい。  
そして科学の発展に寄与する最高のテコを実現したい。

そんな想いから、社名をArchimedes' Lever = Arclev  
(アークレブ) と名付けました。



AASNメンバーについては、[www.arclev.co.jp](http://www.arclev.co.jp)にて  
一部情報を掲載しております。